

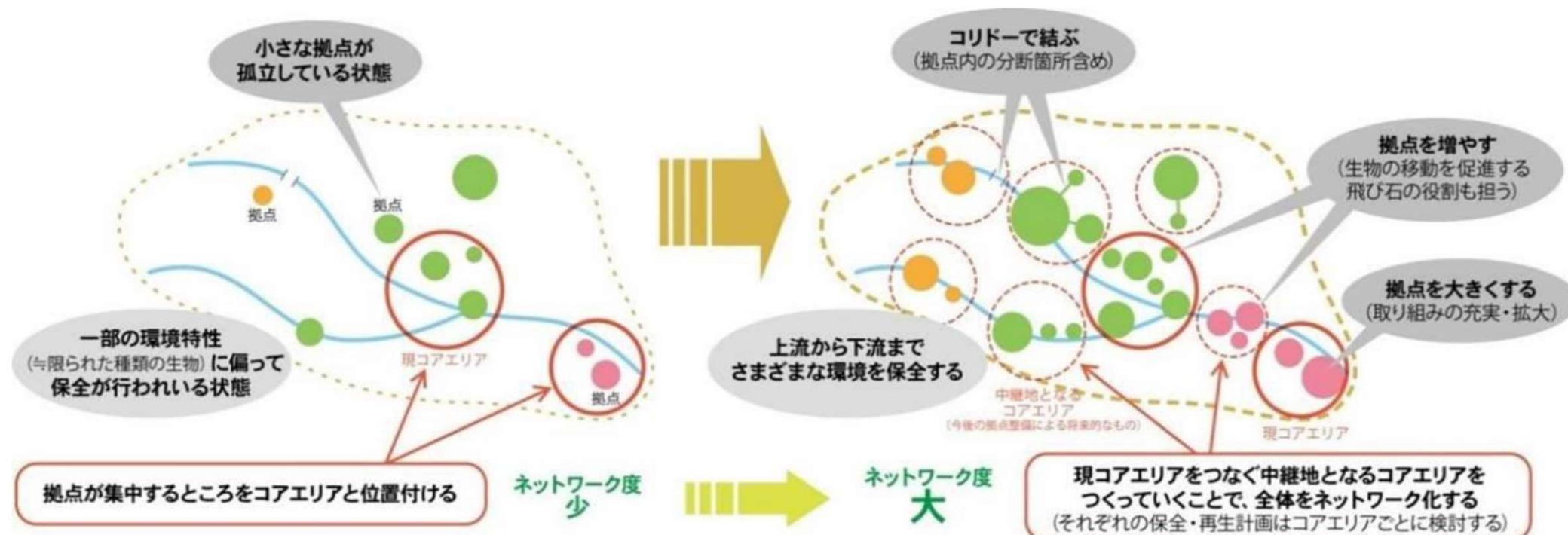
# 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて

## 【生態系ネットワーク(エコロジカル・ネットワーク)】

生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然環境を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取り組み

- 形成の目的
- ①生態系・生物多様性の保全・再生(自然環境)
  - ②地域振興・経済活性化・流域治水(社会経済)

### ①生態系・生物多様性の保全・再生(自然環境)



## 生態系ネットワーク構築のイメージ

出典:「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の促進に向けて(案)」(平成29年8月遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会)

# 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて

## ②地域振興・経済活性化・流域治水(社会経済)



出典:国土交通省HP、「川からはじまる川。から広がる 魅力ある地域づくり 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」

# 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて

## ②地域振興・経済活性化・流域治水(社会経済)



流域治水の取組においては、自然環境が有する多様な機能をいかす グリーンインフラの考えを普及させ、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することにより、生態系ネットワークの形成に貢献すること。

【特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律 附帯決議(一部抜粋)】

◆生態系ネットワークの形成により、生物多様性の確保を図り、人と自然との触れ合いの場を提供することで、地域に社会面・経済面において様々な効果をもたらすことが期待される。

# 第4回 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 概要

- 越後平野において、トキ・ハクチョウをシンボルとして、その安定的な生息に向けた地域間の情報交換や様々な活動を通じて、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すことを目的として、令和元年7月に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立
- 「全体構想」、「行動計画骨子」案について、有識者をはじめとする皆様からご意見・情報提供を頂くため開催。

## 【概要】

### ■開催日時

令和5年3月8日(水) 10:00~12:00

### ■プログラム

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1)規約の改定(案)

(2)前回(第3回協議会)の報告、越後平野における生態系ネットワークのWebサイト、親しみやすくする取組、全体構想への意見募集について

(3)部会の開催状況報告

(4)越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想(案)

(5)行動計画策定の進め方、越後平野生態系ネットワーク行動計画(2030)の骨子(案)

(6)その他、今後のスケジュールについて

4. 閉会



第4回協議会の様子

## 【前回(第3回協議会)の報告】等のご意見

- 自然再生の中のネットワークが重要さは、社会の中では認識されていない。本事業で意識改革を進めていかなければならぬ。河川と共に周辺農地や森林との繋がりの中で生き物は生き、それを支える地域振興を考え、多くの人たちが関わる生態系ネットワークの構築が重要であるということを、本事業を進めていく上でご理解いただきたい。
- 関係する市町村の首長の方に出席いただき、トップがその効果等を理解しているとその波及効果はより大きなものとなると思う。
- 地域のグリーンインフラをどのように構築、持続させるのか、地域の首長を先頭に、地域の皆さまが理解を深めることが重要。
- ウェブサイトに問合せフォームを設け、問合せカテゴリーが用意されていると良い。質問・意見を取り入れる旨を示すと、地域の自然環境の情報共有等、意見が出やすくなると思う。ご意見は、市長村や関係機関に対して情報共有し、地域に落とし込むと良い。その結果、関係機関の方もウェブサイトを利用するようになり、さらにご意見が届くようになると思う。
- 越後平野は主に潟環境と平野部、山との林縁部に広がる里地里山環境という、二つの環境に大きく区分できる。潟を中心とした水辺環境はガン・ハクチョウ類を指標種とし、里山環境はトキを指標種にするという考え方もある。越後平野全体を広く扱うよりも、潟と平野、里地里山に対して、それぞれで地域再生に取組む手法が重要。それにより、浸透スピードが変わると思う。

## 【部会の開催状況報告】等のご意見

- 実感、経験したものを共有、検討することで新しいイノベーションが生まれる。まずは自分たちが体験して魅力を知ると良い。
- ビジネスとして進めるなら、このような仕事もあると目を向けてもらうためにも、お金を取っていくことも非常に重要。
- Eco-DRRを取り入れた治水事業等を進められると良い。自然再生事業であり、防災や減災を組み込むというものである。
- 農地の耕作放棄地の土地利用をどのように向き合い考えていくか、考えていく必要がある。例えば遊水地として活用すると、Eco-DRR、グリーンインフラの一つにもなり、かつ観光に活かせるような、繋がりができるくると良いと思う。Eco-DRRから、エコツーリズムのような展開ができるのではないか。そのためにも、ネットワークを構築していくことが重要。
- 専門学校、新潟県内にある自然環境関係、農業やバイオ関係の専門学校等の学生も取り込んでいくと良いとの意見もあった。
- 国土交通省が取り組んでいる事業の中で、すでに生態系ネットワークの場づくりに該当するところをアピールすると良いと思う。

## 【越後平野における生態系ネットワーク全体構想(案)】等のご意見

- 「人材の育成」も入れたほうが良い。地域に誇りを持った、地域を支えていく人材の育成に、関連するような取組があると良い。
- 旧JAささかみはモデルサイトとして、エネルギーをもらえるような人を核としながら、踏み込まないといけないエリアだと思う。
- OECM、30by30等の新しい概念や流れも取り入れると良い。適宜、改定してブラッシュアップしていくと良いと思う。

## 【行動計画策定の進め方】等のご意見

- 自治体が率先してその地域を守り育していくという視点に立たないと、絵に描いた餅に終わる。その辺をぜひ理解いただき、様々なアクションを起こしていくというのは非常に大切と思う。首長という話も同様で、自治体の捉え方が重要と思う。
- 本事業は生き物の情報をベースに、地域の環境資源を最大限生かして、地域の魅力を引き出し、観光、グリーンインフラ等も含めて、様々なインフラ整備を考えるものである。地域の持続性を考えていくプラットフォームとしていただきたい。
- 現状、農業問題と自然保護に、法が大きな障害となる。本取組と同時に、様々な法律の改正を国は急ぐべきであり、協議すべき。法整備を進める上で、問題を洗い出して原点に立つと良い。モデル事業を通じて、自分たちで情報を集めて良いと思う。